

土・まち・みどり

通信 第43号

2011.5.8

発行 NPO 法人土とみどりを守る会

連絡先 6421-2118 (事務局)

CONTENTS

◆東日本大震災に寄せて ◆おくさわ今と昔 ◆早春のつどいレポート(お話)
◆早春のつどいレポート(奥沢コンサート) ◆活動報告 ◆会からのお知らせ



3.11を越えて

東日本大震災で亡くなられた方のご冥福をお祈りいたします。被災された方々、まだ避難所生活の方々には心からお見舞いを申し上げます。原発の事故は、私たちの生活にも大きな影響を与えています。この災害を契機として、より安全で心安らかに暮らせるように、社会が転換することを願いつつ、私たちにできることから取り組んで行きたいと思います。

過大な電力消費に頼らないようにすることが危急の課題です。街のみどりが失われコンクリートで固められたために、都市の気温が上がり、エアコンの放熱がさらに気温を上げます。この悪循環は、原子力産業を背景に、電気の消費増大に歯止めをかけたかったエネルギー政策の結果かもしれません。

様々な植物と土壌は冷気を生みだします。じっさい奥沢の私の家は南と北に樹木があるために、通気をよくすれば、冷房無しでも快適に夏を過ごすことができます。今となってはちょっと贅沢なことですが、そもそもこれが奥沢の伝統的な住まい方でした。私の家ではこれから屋根の緑化や、様々な自然エネルギーの利用に取り組むたいと考えています。

エネルギー消費を抑えつつ快適に過ごすためのアイデアはいろいろあるので、街全体で電力消費量を減らすことができればと思います。5月21日の総会では、このようなことについても意見も交わすことができればと考えています。(堀内)

奥沢の防災

交和会の高橋孝三防災部長と奥沢中学校副校長に奥沢1～3丁目の防災について聞いてみた。

高橋防災部長は奥沢駅南側で灯油店を経営し、灯油を非常時用に常時確保している。交和会としても被災時に供給出来るようにお米屋・ガソリンスタンドとも契約しているそうである。交和会の目黒線富士見橋下の防災倉庫には2升炊きの炊飯器、コンロ等を用意し訓練もしている。また消防団とは別に婦人消防隊を組織し、専用の消火用ポンプ車を使って消火訓練をしていることはあまり知られていない。

更に東日本大震災発生時には民生委員の方々とも協力し、被災時に一人では心配なお年寄りを訪問し、声をかけて回った。お互い無関心になりがちな時代だがお年寄りや子供達に日頃から声かけをして絆を深めておくことが大切であろう。

また交和会は学校に設置される指定避難所を運営することになっている。奥沢東地区小中3校が学校協議会を通じて連携し、毎年持ち回りで学校の親子と共に体育館に泊まり込みの訓練をしているので、住民が積極的に参加出来る体制が望まれる。

奥沢中学校副校長の話では今年避難所のマニュアルが全区内で改訂されるそうである。避難所が設置されると、飲み水・食料・トイレ等が確保される。また各校には毛布・乾パン・アルファ米等が保管されている。新しく住まわれた方は避難先の学校の場所だけでも先ず確認しておいて欲しい。(赤松)

おくさわ今と昔

(このシリーズでは奥沢に長くお住まいの方と新しく移ってきた方々など、毎回2人の住民の方が登場し、この街にちなんだエピソードを語っていただきます。)

「田舎だった奥沢」

奥沢2丁目 藤井 悦司

私が奥沢に引っ越してきたのは、いまからかれこれうん十年も前のことです。それまで父親が公務員だったので千代田区隼町の官舎におりました。

越してきて、一番怖かったのは自分の家のトイレです。何しろ生まれたときから、官舎は水洗トイレでしたので、まずお手洗いが俗に言う、ポットン便所であることに、びっくりしました。びっくりしすぎて、とにかく用が足せないのです。困って困って、仕方なく、いちいち、自転車で自由が丘まで駅前のビルのトイレを借りに行っていました。町の道路もまだ、舗装されてなく砂利がしいてあるだけのもので、雨が降ると泥だらけ。まだ、子供でしたので友達も恋しく、

「ああ、何でこんな田舎に来ちゃったんだろう」

なんて、我が身の不幸を嘆いて居りましたが、まあ、それも子供のこと。町は見る見る整い、緑豊かな奥沢の住み心地の良さに馴染んで参りました。

縁あって私の兄が、この地で洋菓子店を営み、その兄の店がたまプラーザへ移転しましたので、そのあとを私が継ぎ、今に至っております。私の子供たちも、奥沢で育ち、幼稚園から奥沢小学校、奥沢中学校とお世話になり、公私とも地域に根ざした、生活を送っております。自由が丘は何とか知っていた田舎者の愚妻も、嫁にくる前は、

「奥沢って、何処？」

と申しておりましたが、今では、

「土地柄は良いし人もいい、便利で静かで、奥沢大好き！」

とまで、申しております。

ロワールも創業五十年になりました。ひとえに、地域の皆様のお陰さまと、心より感謝致しております。これからもどうぞ宜しくお願い申し上げます。




Patisserie de la Loire
ロワール

(ロワールの包装紙

画：三岸節子 ロゴ：里見勝蔵)

「温かい街、奥沢に感謝」

奥沢2丁目 石井 あゆみ

私たち家族が奥沢二丁目に引っ越しをしてきてから、はやいもので三年がたちました。

我が家には二人の息子がおりますが、子育てを通して、奥沢の皆様の温かさを実感しております。

以前奥沢五丁目住んでいた頃から、息子達が学校へ登校する際に「いってらっしゃい。」とお花屋さんのご夫妻が手をふってくれ、下校時には、青果店の家族の方々が「お帰りなさい」と声をかけて下さりました。

「今日チューリップが咲いていたよ!」「おいしそうな大きなスイカがあったよ!」と息子達との会話も自然とはずみ、季節を肌で感じながら子育てを楽しくできたことも、地域の皆様に優しく見守って頂いてきたからこそと有り難く思っております。

三月の初旬、小学六年生の次男が「今朝、毎朝お会いするおばあちゃまから、卒業のお祝いを頂いてしまって、どうしたらいいのか困ってしまった。」と帰宅しました。以前より息子から毎朝登校時にお声をかけて下さる方の話は聞いていたものの、お名前も存じ上げず、息子と相談をして次の朝一緒に行ってみたところ、奥沢神社近くで白髪のととても品のいいおばあちゃまとお会いすることができ、ご挨拶をしてお話をうかがってみると、毎朝「おはようございます。」と声をかけてくれる息子と会うことを楽しみにしていた為、三月に卒業と聞き、孫のように可愛く思っていたから、気持ちばかりのものを受け取って欲しいとのこと。有難く頂戴させて頂くことにしました。

更に長年住みなれた奥沢を離れ、地方に住む息子さんの所へ引っ越すと伺い、息子も胸がいっぱいになってしまったようで、涙をこらえながら「ありがとうございました。さようなら。」と言ってお別れをしました。

息子にとって忘れられないおくりもの、そして大切な小学校卒業の思い出となったことは間違いなくこの奥沢で、毎日心豊かに過ごさせて頂いていることに親子共々感謝の気持ちでいっぱいになりました。

お話 「犬と共生のくらし」



(黒井眞器さん)

現在日本で飼育されている犬は1200万頭といわれていますが、一方で毎年20万頭が保健所のお世話になっているようです。今回の東日本大震災では、餌も無く繋がれたままの犬や訪れた人たちに餌を求めて尾を振り近寄る犬たちに涙を誘われました。

さて、つどいではこのような事が起こるとは全く予想しませんでした。住宅の多い奥沢では今後も犬や猫等のペットとの共生を考えて行く必要があると思っていました。

今回は2丁目にお住まいの黒井眞器さんから日本犬についてのお話を伺いました。

黒井さんは海軍村関係者のご家族ですが、以前から犬を飼っているうちに幾つかの出会いがあり、その中でとても賢い柴犬の存在を知りました。その犬は鼻筋に特徴があり、額から鼻先にかけて滑らかな曲線を描いていますが、現在の柴犬は目の下あたりではっきりくぼみがみられます。真正面か真横から見るとはっきり違いが分かります。原始的な犬にはこの額段が殆ど見られないのです。

犬は遺伝子的に見ると明確に分離出来ないほどオオカミに近いと言われ、オオカミ犬と言われる混血種も日本で飼われています。また、犬が東アジアでハイロオオカミから別れたのは3万年前～1万5千年前頃ではないかと見られています。その後狩りの手伝いをして人間と共に暮らすようになって行きました。日本には縄文人と共に入って来たのではないかと思われ、人間にとっても大切にされ可愛がられていた存在であることが、お墓の発掘から想像されます。縄文中期には中型犬が入り少し体高の大きい中型日本犬(紀州犬・甲斐犬)の祖先になったと考えられています。

猟犬であった柴犬は弥生時代になると、定住化が進み食料が増産され、マタギのような猟師を除くと不要になり食料として飼われていたようです。中国

の影響が大きいと思われます。あまりお墓にも埋葬されなくなっていました。一方柴犬は山野を駆けめぐりやすい体型に発達していったのでしょうか、江戸時代迄狩猟犬として残されていました。柴犬の頭骨はディンゴ(オーストラリア)、ニューギニアの土着犬、オオカミ等との共通点が多く、歯が頑丈、後頭部の発達等の肉食動物の特徴が見られます。

明治維新後は洋犬の大量流入により混血が進んでしまい、今や純粋な日本犬はいなくなっていました。昭和初期には日本犬保存会が設立されいろいろ研究され日本犬標準も出来ました。また昭和11年には柴犬が天然記念物に指定されました。しかし、太平洋戦争は犬たちにも暗い影を落とし、柴犬は絶滅の危機を迎えてしまいました。

この時立ち上がったのが中城龍雄氏で、人間の好みに沿った方向の改良をやめ、犬の原種により近い柴犬を復元し後世に残すべく、考古学者の長谷部言人氏の助言を受け、昭和34年に『天然記念物柴犬保存会』を立ち上げました。

以来日本全国を訪ね、柴犬本来の特徴を持つ犬を探し、現在では20世代を重ね、3万頭近くの血統書が発行される迄になりました。現在の保存数は2千頭で柴犬標準も定められています。また年3回展覧会が開かれ、古代からの猟犬としての資質や形態を審査、表彰しています。

柴犬は本来猟犬のため、西洋犬のようにひたすら飼い主に服従せず、飼い主が替わると慣れにくい面もありますが、信頼関係が出来ると忠実になり、幼犬時に関わると終生忘れません。都市部では子犬の頃から都会の環境に根気よく慣らせば家庭犬として適した犬にもなれるでしょう。柴犬は何を要求されているか考えて行動してくれる賢い勇敢な犬です。

(赤松)



(お話後の懇談、話は尽きない)

おくさわコンサート「尺八・琴」

第二部は、久し振りに邦楽の演奏で、渡辺生童さんの尺八と山岡操曙さんの琴を聞きました。渡辺さんは長年奥沢二丁目にお住まいの方で、お父様から手ほどきを受け60年の長きにわたり尺八に親しんでおられます。

1曲目は「千鳥の曲」で山岡さんとの合奏です。「春の海」や「天段の調」と並んで広く知られている曲で、古今和歌集、金葉和歌集から千鳥を詠んだ和歌二首を歌に取り入れています。「しほの山さしでの磯にすむ千鳥 君が御代をば八千代とぞ鳴く」「淡路島 通ふ千鳥の鳴く声に 幾夜寝覚めぬ須磨の関守」と歌いながら琴を演奏されました。琴と尺八は、波の音や千鳥の音となって響きあっていました。

2曲目は尺八の独奏で、曲目は「一二三の鉢返し」でした。琴古流の基本となる曲で、一二三（ヒフミ）とは物の始めの意味で、初心者基礎習得から師範の免許皆伝に至るまで、マスターするには数多くの

曲やメロディーを学習する必要がある非常に高度の難しい曲だそうです。一二三の調べ次に、鉢返しになりますが、鉢返しとはお布施に対してお礼に吹く曲です。澄んだ音色の何か宗教的な崇高な調べに心が洗われる演奏でした。

例年よりもずっと寒い冬でしたが、春の早い訪れを願ってつどいを終わりました。（鈴木）



（千鳥の曲を演奏する渡辺さん[右]と花岡さん）

活動報告

- 平成22年度玉川地域・地域交流会：玉川地域で地域の絆再生支援事業補助金の交付27団体と20町会の交流会が、2月8日玉川総合支所で行われました。支援事業を紹介し合い町会との交流を行いました。当会から落ち葉掃きプロジェクトを紹介しました。
- 風景づくりフォーラム会議：2月19日に、当会の活動を、他のグループや区の関係部署との連携の推移について紹介させて頂き、会の成長には連携が重要な役割を果たしてきたことを報告しました。
- 奥沢駅南側世田谷区保存樹ケヤキの伐採：奥沢駅の南側に13階建てのマンションが建設されることになり説明会がありました。近隣に住むAさんから、何とか残せないかとの相談がありましたが敷地は開発側へ移りAさんもギブアップされました。私有権が環境保全に優先する現状に保存樹木も泣いています。
- チェリーセージ春のメンテナンス：4月10日に実施しました。日頃の水遣り、除草、剪定等ご協力頂き有難うございます。今回は横にこんもり広がるように剪定を工夫しました。

会からのお知らせ

- ミニ園遊会5月21日(土) 11時30分(雨天翌日)より奥沢2-32-15のいつもの空地をお借りして開催します。皆様のお越しをお待ちします。
- NPO法人土とみどりを守る会の総会をミニ園遊会に先立ち10時30分から開催します。会員の皆様には出欠の葉書を届けましたので、総会欠席の場合は委任状に捺印の上ご返送下さい。21日雨の場合は、22日に、両日とも雨の時は奥沢東地区会館で行います。
- 土とみどりを守る会はいつでも新会員を募集して

います。会の活動を支える会費は1口1,000円です。どうぞ御協力をお願い致します、ご連絡は下記へ。

- 理事の吉田二六さんが4月21日に亡くなられました。同窓生と一緒に奥沢の昔を調査頂き有難うございました、ご冥福をお祈りします。

土とみどりを守る会 連絡先

世田谷区奥沢2-32-11 堀内正弘 5701-5901
世田谷区奥沢2-19-9 長瀬雅義 5729-0126
世田谷区奥沢2-18-6 鈴木 仁 3723-6659
ホームページ ; <http://tsuchimidori.net>
e-mail ; info@tsuchimidori.net